

動詞で示される事の度数・量数等を表す数詞

— いわゆる「動量詞」の日中言語の比較 —

劉 素 英

日本語と中国語の数詞は読み方からしていろいろ違いがある。が、本論では、動詞で示される事の度数、量数、又、持続する時間などを表す数詞に限定して日本語と中国語の比較を進めていきたいと思う。このような「数詞とその語尾としての助数詞」は、中国語では一括して「動量詞」〈注1〉と呼んでいる。(それに対して、名詞で示される物の数量を表す数詞を「名量詞」と呼ぶ) 便宜上、本論では日本語のほうにおいても相当するものにこの言い方を借用する。

以下の — 線の部分を「動量詞」と認定する。(……の部分は「名量詞」と認定する)

① a. 二十二才の夏休み、三十日足らずの間に私は三度葬式に参列した。(葬)

／二十二岁的那年暑假、在不到三十天的时间里我参加了三次葬礼。

b. 此の分では一杯の水が十日位続くだろうと思って書齋へ帰った。(夢)

／他觉得照这样下去一杯水可以维持十天左右、这样想着他回到了书斋。

a 文の「三度」「三次」は「参列した」回数を表わし、b 文の「十日」「十天」は「続く」時間を表す。

日本語と中国語は語法も語順もずいぶん違っているので、「動量詞」を用いるに置いても、構文上、意味上でいろいろ違いが出てくる。以下、二項目にわけて検討していくことにする。

I 使用範囲による分類

I(1) 度数を表わす「動量詞」

動作の回数を表わす。例えば「中国へ一度行った」の「一度」である。

中国語には次のようなものがある。～部分は数字とする。

A. ～次、～回、～趟、～下、～頓、～番、～个、～場、～陣

これらはすべて「度」や「回」に訳すことができるが、それぞれ違う意味を持っている。

B. ～眼(目)、～口(口)、～脚(足)、～拳(拳)、～枪(銃)、～面(顔)

B類の使い方は例えば、

②a. 他看了我一眼(彼は私をちらっと見た)

b. 朝天上放了一枪(空に向かって鉄砲を撃った)

の例がある。

A類の語は回数を表わす時にしか使えないし、名詞として単独的に文の成分になって使うことができない。それに対して、B類の語は本来、意味を持っている名詞であって、回数を表わす以外にも使うことができる。このような違いがあるので、A類を「専用動量詞」と呼び、B類を「借用動量詞」と呼ぶ。「借用動量詞」になる名詞は主に動作に関係する事物(道具、体の器官)などである。

日本語には次のような回数を表す「動量詞」相当のものがある。

A. ～回、～度、～遍、～通り、～言(専用動量詞)

B. ～口、～声、～目(借用動量詞)

回数を表す「動量詞」については、以上を見た結果、二つのことがわかる。

1. 日本語では「動量詞」の語尾・助数詞の部分はわりあいに単純で、数がそんなに多くない。それに対して、中国語のほうは意味が細かく分かれているので、表現が複雑である。以下に両語を対照する。

③a. 中国に一度(一回)行ったことがある/a' 去过中国一趟

b. 一日に三度(三回)ご飯を食べる/b' 一天吃三顿饭

c. この本を三度(三遍)読んだ/e' 这本书看了三遍

d. あの授業を二度(二回)聞いた/d' 那课听了两次

e. 一度(一回)失敗した/e' 失败了一回

f. 彼に一度(一回)しか会っていない/f' 只和他見了一面

日本語の「一度(一回)」で表現するところは中国語に直すと、いろいろな表現となり、その場にもっともふさわしい「動量詞」が用いられ、それぞれ意義的、ニュアンス的に違ってくる。回数の場合、中国語の「次」は使用範囲が一番広く、以上a'～f'はすべて「次」に置きかえられるが、文中に用いられた「動量詞」は

びったりあっているので、^二次^一を使うより、それぞれ特徴をもっている「動量詞」を用いるほうが普通である。

2. 中国語では「借用動量詞」が「専用動量詞」と同じようにごく自然に大量に使われている。日本語のほうでも数は少ないが、「借用動量詞」といえるものがぜんぜんないわけでもない。例えば、

- ④a. お客さんに一声かけた／向客人打了一声招呼
- b. お茶を一口飲んだ／喝了一口茶
- c. 主任はホット一息ついてタバコを一本とり出した。
／主任松了一口气拿起一只烟
- d. 一風呂浴びましょう／冲 (一) 个澡吧

のような使い方もある。^二声^一、^二口^一、^二息^一は体と関係する名詞であり、^二風呂^一は^二洗う場^一である^二道具^一である。どれもが回数を表すだけに使う「動量詞」ではないので、「借用動量詞」と見ていいと思われる。日本語の場合、借用できる名詞の数はごくわずかで、しかもほとんど数字が^二一^一である時にしか使えないようである。場合によっては^二二声三声^一、^二二口^一などのような不定表現も用いられるが、^二三^一までにとどまるようである。中国語のほうはこの点、わりあいに自由であるが、^二三^一までにとどまることも多い。しかし、日本語には、

- ⑤a. 一眠りしよう／睡一覺
- b. 一休みしてからやる／稍微休息一会儿再干
- c. 今日、東京を一回りした。／今天把東京转了一圈
- d. 午前中、一寝した／上午、睡了一覺

のような表現がある。この「—△△」式の表現は、後に来る「する」と一緒に「サ・変」動詞として用いられるのが普通であるが、動詞（居体言）の借用から来た「借用動量詞」ではないかと思われる。つまり、中国語は事物の名称を表す名詞しか借用できないのに対して、日本語は動作・行為を表す動詞（の連用形）も借用できることである。

I(2) 時間を表す「動量詞」

動作の持続する時間を表す。例えば^二一年間日本にいた^一の^二一年間^一である。

中国語には

- A. ～小時(钟头) / ～時間、～分钟 / ～分間、～年 / ～年、～年間
～(个)月 / ～カ月、～星期(周) / ～週間、～天 / ～日、～日間
半天 / 半日、いっしょうけんめい (専用動量詞)
- B. ～早晨 / ～朝?、～上午 / ～午前中?、～中午 / ～昼?、～下午 / ～午後?
～晚上 / ～晩、～晩中、～夜 / ～夜? (借用動量詞)

などがある。B類の語は「早晨和晚上有点冷了 / 朝夕はちょっと寒くなってきた」のように単独的に名詞として使うことができるから、B類の語は時間を表す名詞を借用するもので、筆者はこれを「借用動量詞」の一種だと考える。

日本語には、

- A. ～時間、～分間、～秒間、～年間、～週間、～日間、半日間、～日、～カ月、～年 (専用動量詞)
- B. ～晩、～晩中 (借用動量詞)

などがある。時間を表す「動量詞」の使い方は、例えば次の二文である。

- ⑥ a. 一年間北京にいた / 在北京住了一年
b. 日本語を一時間勉強した / 学了一小时日語

時間を表す「動量詞」については、日本語と中国語はあまり相違がない。ただ、上記の例のように、日本語には「間」がつくのが特徴的である。点的時間ではなく、持続する時間を表すので、「間」があるのは当然であろう。また、「借用動量詞」相当のものの場合、日本語では、

- ⑦ 一晚寝たらそんなに肝癪に障らなくなった (坊)

などの例がある。そのほかは誤用になる。

- × 一朝勉強した (→朝、ずっと勉強していた)
× 一午前中寝ました (→午前中ずっと寝ていた)

これに対し、中国語では、

- ⑧ a. 学了一早晨 / 朝、ずっと勉強していた
b. 睡了一上午 / 午前中、ずっと寝ていた
c. 说了一中午 / 昼、ずっとおしゃべりをした

などのいい方はごく普通の表現である。また、中国語にしても、日本語にしても、

時間を表す「借用動量詞」を使う時、数字が「一」である場合にしか使えないようである。

I(3) 結果と変化を表す「動量詞」

動作の変化の度合、あるいは結果を表す。例えば次の三つの文である。

- ⑨ a. 中学の在学中に15センチ背が伸びた／中学在校吋長了15公分
- b. 五日間で三キロ無理なくやせる／五天轻而易举地瘦三公斤
- c. したがって私は十年間に約五十万キロ走行したことになる(タ)
／这样一算、我十年大約行駛了五十万公里

この類の「動量詞」は日本語にも中国語にもあり、度量衡単位を示す語を用いることが多い。『日本語教育辞典』ではこの類の数詞を「量数詞」と呼び、「個数数詞(名詞で示される物の数量を表す数詞)」と同様に用いられるという。〈注2〉「個数数詞」は中国語でいう「名量詞」に相当する。

I(4) 特殊な「動量詞」

この類の「動量詞」は実際の数量を表す働きを少し残しているが、実質的な数量の意味を表すよりも、語気、語調を整えるために用いられるものである。この「動量詞」は程度副詞として動作の状態、程度などを表し、話者の軽い、自在な語気、動作の軽やかであることを表す。この類の「動量詞」はほとんど固定化されていて、「数詞」は「一」であることが多い。中国語の場合「一会儿」、「一下」、「一点儿」が一番よく使われているが、他の「動量詞」もよく用いられる。日本語では、「一つ」か「一言」などの語しかないようである。以下に例を挙げる。

- ⑩ a. 一つやってみてください／稍微干々試々
- b. 一つ飲んでみよう／那我稍微喝点
- c. 一つよろしくお願いします／那就拜托你了
- ⑪ a. 我去一趟就回来／ちょっと行ってきます
- b. 休息一会儿吧／しばらく休憩しましょう
- c. 請等一下／ちょっと待ってください
- d. 再多吃一点儿／もう少し食べてください

上記の例から考えられることが一つある。

日本語では「動量詞」で表されるところが中国語ではほとんど副詞になる。それと逆に中国語では「動量詞」で表すところ、例えば「一總」、「一会儿」、「一下」は日本語に直すとこれも副詞になる。従って、日本語にしても中国語にしても、この類の「動量詞」はもはや副詞的表現に変わってしまったといえるであろう。

又、この類の表現に「一～」が多いということは先ほど述べたが、次の場合にかぎり、中国語は「两～／(二～)」である。

⑫ a. 一言言いたいことがある→我想說两句

b. えんりょしないで一言言ってください→請隨便說两句
「一句」だったら実際の数量を表す「動量詞」になる。

II 構文上の特徴

II(1) 日本語の場合

まず例文を見てみよう。

⑬ a. 彼は中国に一度行ったことがある。／他中国去过一趟

b. 彼は一度中国に行ったことがある。／他去過一趟中国

⑭ a. 彼は本を一時間読んだ。／他书看了一小时

b. 彼は一時間本を読んだ。／他看了一小时书

日本語では動詞が述語として使われる時、動詞が必ず文の最後におかれるので、その動詞の修飾語として使われる時「動量詞」は必ず動詞の前に置かなければならない。しかし、「動量詞」と目的語(～を)・補語(～に・へ)との位置関係は、以上の例文を見てもわかるように、自由であって、目的語や補語の前にでも後にでも成立する。

A. 目的語を(補語に・へ) + 「動量詞」 + 動詞

B. 「動量詞」 + 目的語を(補語に・へ) + 動詞

ただし、置かれる位置の前後によって多少意味強調の違いが生じる。

1. A形式を使うと、目的語(補語)を他と区別して強調して言うことになり、B形式を使うと「動量詞」の表す内容 ― 回数・時間などを強調することになる。例えば、

一度中国に行った

は「一度」を強調し、

中国に一度行った

は「中国」を取りたてて言っていることになる。次の文もこの例である。

⑮ a. 私は一晩中鼻をかみ、くしゃみに悩まれ、慢性的睡眠不足に陥った(タ)

(△私は鼻を一晩中かみ、……)

b. 病院に数時間いると、世の中の人間がすべて病人に思えてくる(タ)

(△数時間病院にいる……がすべて病人に……)

aの文は時間の長いこと、bの文は場所を強調している。だから、

あなたは何時間本を読みましたか。

に対して、

私は本を一時間読みました。

は不適當で、

私は一時間本を読みました。

にしたほうがよかろう。

2. 「一口」「一声」のようないわゆる「借用動量詞」はA形式が用いられる
場合が多いようである。

⑯ a. 手紙を一目見た由雄はお延を玄関先に待たせたまま入用の書類を探しに
奥へ這入った。(明) (△一目手紙を見た由雄……)

b. お客さんに一声かけた。(△一声お客さんにかけた)

II(2) 中国語の場合

中国語では「動量詞」が日本語と違って常に動詞の後におかれる。その使用形式は三つある。

- A. 目的語＋動詞＋「動量詞」
- B. 動詞＋「動量詞」＋目的語
- C. 動詞＋目的語＋「動量詞」

例えば、

A. 他中国去了一次／彼は中国へは一度行った

B. 他去了一次中国／彼は一度中国に行った

C. 他去了中国一次／彼は中国に一度行った

A形式は目的語を強調しているから日本語のA形式に相当する。B形式は「動量詞」を強調していて、日本語のB形式に似ている。C形式は動作を強調していて、日本語のAにもBにも訳すことができる。A形式とB形式はごく一般的に用いられているが、C形式は目的語が人称名詞、国、場所の名前である時にだけ用いられる。

例えば、

他去了中国一次

は言えるが、同じC形式＜動詞＋目的語＋「動量詞」＞で

×他看了书一小时

は言えない。次の幾かの文もそうである。

⑰ a. (○) 我等了他半小时书／わたしは彼を30分待った (○)

(×) 我等了汽车半小时／わたしはバスを30分待った (○)

b. (○) 他问过老师两回／彼は先生に二度聞いた (○)

(×) 他听过广播两回／彼はラジオを二度聞いた (○)

c. (×) 我吃了飯三頓／彼はご飯を三回食べた (○)

(×) 他打了電話两次／彼は電話を二回かけた (○)

以上、日本語の訳文を見てもわかるよう日本語にはそのような区別がない。

II(3)

⑱ a. 他看了一小时的书 (→他看了一小时书)／彼は一時間本を読んだ。

b. 他喝了一晚上的酒 (→他喝了一晚上酒)／彼は一晩中酒を飲んだ。

c. ×他去了一次的中国→(○) 他去了一次中国／彼は中国に一度行った。

d. ×我看了一遍的书→(○) 我看了一遍书／私は本を一度読んだ。

以上の例文を見てわかるように、「動量詞」と目的語との間に「的」を入れることができる場合とできない場合とがある。「動量詞」の後に「的」をつけることができないのは回数を表す時である。回数を表さない「動量詞」の後には、a、bのように「的」をつけることができ、「的」がついても「的」のない文とは意

味が変わらない。しかし、このような表現は日本語にはない。日本語のほうは回数「動量詞」にしても、時間などの「動量詞」にしても、いずれも「の」をつけることができない。

①9 a. ×彼は一時間の本を読んだ→○彼は一時間本を読んだ。

b. ×彼は一度の中国に行った→○彼は一度中国に行った。

もちろん

②0 a. 彼は一時間の映画を見た

b. 彼は四年間の大学生活をした

などの表現もあるが、この「一時間」も「四年間」もみな名詞を限定していて、「見た」も「した」にかからないので、「動量詞」ではない。

II(4)

中国語の場合、「動量詞」は常に動詞の後に置かれるとII(2)で述べたが、実際には、動詞の前に用いられる表現はしばしば見られる。例えば、

②1 a. 他成功了一次

b. 他一次成功了

「一次」は「成功了」の前においても後においてもよい。しかし、前後の位置の違いによって意味が違ってくる。日本語に訳すと、

②2 a. 彼は一度成功した

b. 彼は一度で成功した

になる。さらに次の文を比べてみよう。

②3 a. 去一个人/一人行く

b. 一个人去/一人で行く

②4 a. 看了一小时/一時間読んだ

b. 一小时看完那本书/一時間でその本を読みおわった

以上の例文を見てわかるように、中国語の場合、「動量詞」が動詞の前に置かれるか、動詞の後に置かれるかによって、意味が違ってくる。同じ「動量詞」であっても、前に置かれる時と後に置かれる時とでは、文中の機能が違ってくる。例文 a のほうは動作の回数や、時間、量などを表すが、b のほう、つまり「動量詞」

が前に置かれる時は、動作がどのように行われているかという状態、基準などを表す。例文の日本語訳を見てもわかるように、動作の回数、時間などを表す場合と動作の進行状態を表す場合とでは、表現も違う。前者は「動量詞」を裸のまま、後者は助詞「で」と一緒に用いられる。

このような違いが出てくるのは中国語と日本語とは、形態上の特質が違うからである。中国語は孤立語で、文法的意味は語順により表わされるものである。以上のような意味上の違いを表現するには「動量詞」の移動によってしか表せないのである。それに対して、膠着語である日本語は助詞を利用して意味の違いをはっきりさせるのである。

ま と め

以上、動詞で示される事の度数、量数等を表す数詞——「動量詞」の使用における日本語と中国語の相異点を考察してみたが、その違いは日中両国語の語彙体系も文法体系も違うところに由来すると思う。日本語の数量詞も豊富ではあるが、中国語は日本語より更に豊富なため、数量詞の使用は多様で複雑である。それに、中国語と日本語は言語形態が違うし、語順が基本的に異なっているので、それも数量詞の使用、及び文中での位置の違いとなって現れる。

以上の考察は、主に日常気づいたところをまとめたものだが、思いこみや偏った見方があるかと思うが、ご先学のご指摘ご批判を頂ければ幸甚と思う。

< 注 >

1. 中国語学界では動作の変化、回数などを表す量詞を「動量詞」と呼んでいる。例えば、『实用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）の中では、
「表示動作或变化次數的單位的量詞叫動量詞。動量詞也分專用動量詞与借用動量詞两类」と指摘している。
2. 『日本語教育事典』（大修館書店） p.110～111

< 出典一覧 >

- （葬）「葬式の名人」（川端康成）
- （夢）「夢十夜」（夏目漱石）
- （坊）「坊っちゃん」（夏目漱石）
- （明）「明暗」（夏目漱石）
- （タ）「タクシードライバー日誌」（梁石日・ちくま文庫）

< 参考文献 >

- 『日本語教育事典』（日本語教育学会編・大修館書店）
- 『品詞別・日本文法講座・名詞、代名詞』（明治書院）
- 沖久雄「数詞・助数詞の文法」（『日本語学』1986. 8）
- 『实用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）